

令和7年度 学校経営計画

四條畷市立田原中学校

Ⅰ 学校経営方針

◎四條畷市教育振興基本計画

予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもから大人まで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要です。（四條畷市教育振興基本計画より）

みんなの学びが叶うまち ～ 生涯 学び 夢 挑戦 ～

★上記の基本理念に基づき、校区の子どもたちの実態を踏まえ、学校教育目標を以下のように定め、様々な教育活動に取り組んでいく。その際のキーワードには下線を記入している。

学校教育目標

- 《 安 心 》・・・子どもたちの居場所があり、安心して学校生活を送ることで、全ての子どもたちがその可能性を最大限引き出せるよう子ども理解に基づいた適切な集団作りに努める。
- 《 信 頼 》・・・「子どもたちは地域で育てる」をスローガンに子どもの活躍や課題はもちろんのこと、日常の生活についても積極的に情報発信するとともに、地域人材の活用を図ることで地域との垣根を取り除き、地域から信頼される学校をめざす。
- 《 笑 顔 》・・・子ども同士、子どもと先生、先生同士、さらには保護者も交えたつながりを深めることにより、笑顔がいっぱいの学校づくりをめざす。

基本方針

(1) 確かな学力と進路指導の充実（主として学習指導部）

- ・生徒が自ら課題を見つけ、主体的に取り組むように努め、基礎学力の定着を図る。
- ・GIGA スクール構想に基づき配布されたタブレット PC を十分活用し、個別最適な学びの充実を図る。
◎個別最適な学びが孤立した学びにならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、子ども同士や他の人との協働的な学びについて調査・研究を深め、実践を進める。
- ・小学校からの系統性のあるキャリア教育の充実を図り、子ども一人ひとりが夢をもって自分に合った進路選択ができるような進路指導に努める。

(2) 豊かな心の育成と温かい人間関係作り（主として学年）

- ・人間関係作りの基本として挨拶の推進、そして承認、賞賛、感謝の声掛けに取り組む。
- ・学年担任制を導入し、様々な出会いを大切にし、多様な価値観や考え方のあることを知ることで、他の人への思いやりの心の醸成を図る。
- ・道徳教育や人権教育の理念を大切にし、子ども自らがこれからの生き方について、しっかりと考えることができるよう取り組みを進めていく。

(3) 生徒指導の充実（主として生徒指導部・支援教育部）

- ・生徒指導は子ども理解からとの考えのもと、日頃からの声掛けや観察を大切にし、問題行動等の適切な未然防止・早期対応に努める。
- ・子ども理解に向け、支援教育について研鑽を積み、これまでの常識にとらわれない理解に努める。
- ・適切な集団作りは、適切な子ども理解があってこそできるのであって、教える側の理想とする集団作りは時により子どもの成長を止めてしまうこともあることに留意する。

◎生徒会活動や学校行事への積極的な参加を進め、リーダーの育成を図るとともに自主・奉仕・協調の精神を育てる。

(4) 健康管理・安全教育・食育の推進（主として生徒指導部）

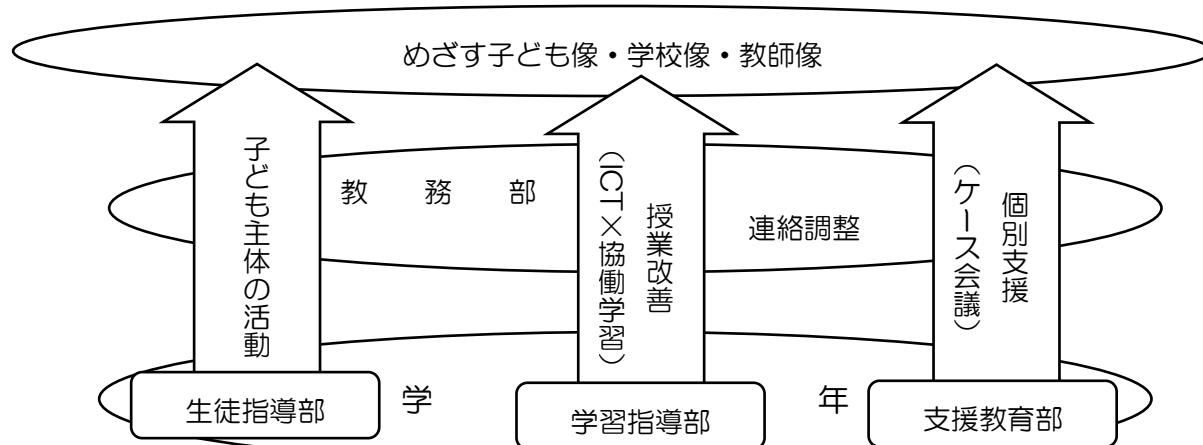
- ・自らの体力を知り、生涯にわたって運動に親しみ、自ら健康を管理し、改善していく資質や能力を育成する。

◎安全の大切さを認識させるとともに、自他の生命を尊重し、自ら進んで安全の保持に努める態度を養う。

- ・登下校時や学校生活、自然災害等における危機管理体制を確立し、安心・安全な学校体制の充実を図る。
- ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。

(5) 地域に開かれた学校づくり（学校運営協議会及びこ小中連携会議）

- ・自分たちの生活する地域の環境に目を向け、素晴らしい環境を守り、郷土愛を育む。
- ・こ小中の連携をすすめ、同じ方向性で校区の子どもたちの成長を支える取組みを計画的に実践する。
- ・学校運営協議会の充実を図り、地域の学校として地域に愛される学校づくりをめざす。



2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	キャッチフレーズ《はなそう、つながろう、やってみよう》 こども園、小学校、中学校とで連携して各学校園の卒業時のめざす子ども像を、学校運営協議会でコミュニティ・スクールとしてのめざす子ども像とした。 《中学校》 <u>「はなそう」：大人にも子どもにも本音でしゃべれる子</u> ※自分の思いを相手の気持ちを尊重しつつ工夫して伝えられるように <u>「つながろう」：誰とでも幅広く交友関係を持てる子</u> ※決まった相手だけでなく多くのつながりを持ち、結果全体としてまとまることができるように <u>「やってみよう」：失敗を恐れず自分で考えて行動できる子</u> ※結果に左右されず自分の興味関心に基づいて様々なことにチャレンジできるように
★めざす子ども像	・人権、個性が尊重され、一人ひとりが生き生きと活動できる学校 ・子どもたちが楽しく学び、確かな学力が身に付く学校 ・美しく学習環境が整った学校 ・地域に開かれた学校（コミュニティ・スクール）
★めざす教師像	・教職員が豊かな人間性と社会性を持ち、教育のプロとしての自覚を有し、尊重しあいながら連携・協力する、<u>同僚性豊かな教職員</u> ・社会情勢について注視し、生徒や学校における課題を見つけることができる教職員 ・課題を明確に把握し、常に情熱と使命感を持ち、チームを意識した職務遂行に当たる教職員 ・危機管理意識の高い教職員

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

(良い面)

きちんと学ぼうとする気持ちが強く、授業にも前向きに取り組む生徒が多い。

授業態度も良く、ペア学習やグループ学習にも積極的に参加できる。

昨年度の取組みから様々な学校行事や学年行事において主体的に取り組み参加しようとする姿が見られる。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

家庭環境的にはとても落ち着いている生徒が多い。

教育熱心な保護者が多い。

②地域

一小一中で、9年間を見通した取組みができる。

③組織(教職員、PTA、保護者)

(教職員)

学校規模の縮小により人数が少なくなってきたため、学年・各部を超えて同僚性を有してチームで連携して協力することが必要であり、逆にそのことを強みとして取り組んで行く必要がある。また、授業力改善に向けての取組みは、とても進んできた。新しい先進的な取組みに触れることで更なる飛躍をめざしたい。

(PTA、保護者)

教育熱心な家庭が多いため、教育活動に寄せる関心度は高い。

保護者の大部分は、学校の頑張りをはっきりと評価し、協力体制も安定している。

PTA活動は協力的で、学校や地域の行事にも積極的に参加する人が少なくない。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
①「ICT×協働学習」を本校における授業改善の目標に置き、そのための取組を進めていく。 ②生徒会活動に加え、授業においても子ども主体の取組みをすすめ、田原中校区のめざす子ども像の実現を図る。 ③支援教育の理念を大事にし、子ども理解に基づいた学習支援・個別支援及び生徒指導を進める。 ④キャリア教育の視点で学校の教育活動を再構築することで、自己有用感の醸成を図る。		学習に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①-1 学習に関する生徒アンケート項目「ICT 機器を活用することで、学習が楽しくなりましたか。」の肯定的回答 ①-2 「ICT 機器を活用することで、進んで学習するようになりましたか。」の肯定的回答 ①-3 学習に関する教職員アンケート項目「タブレット PC を教員以上に活用した。」の肯定的回答	①-1 80% ①-2 70% ①-3 80%	現状 ①-1 64%、①-2 56%、①-3 76% <u>先進的な取組を行っている学校の訪問や優れた教職員の授業を参観するなどして、学んだことを教職員で共有する。</u> 学習指導部を学力向上委員会と設定し、部会でしっかりと議論する環境を整え、授業研究を推進する。 日常的な情報交換、短時間の打ち合わせの実施 様々な場面での授業研究の推進 AI 型ドリルの計画的活用や「創造的思考の問い」を取り入れた授業づくり、プロジェクト型学習の推進
②-1 学習に関する生徒アンケート項目「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答 ②-2 自己診断生徒アンケート項目「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の肯定的回答 ②-3 自己診断生徒アンケート項目「あなたはつらい時、困っている時に相談することができていますか」の肯定的回答	②-1 90% ②-2 100% ②-3 90%	現状 ②-1 78%、②-2 88%、③-2 77% 学校全体や地域を含めての挨拶、承認、賞賛、感謝の声掛けの推進 子ども主体の生徒会活動の活性化 日常的な情報交換、短時間の打ち合わせの実施 年度当初から学年担任制を導入し、多面的・多角的生徒理解や生徒対応を推進する
③-1 学習に関する生徒アンケート項目「学校に行くのは楽しい」の強否定的回答 ③-2 学習に関する教職員アンケート項目「支援教育の視点から指導上の工夫を行いましたか。」の強否定的回答	③-1 0% ③-2 0%	現状 ③-1 13%、③-2 5% 学年担任制の導入に基づく多面的多角的な生徒理解とそれによる対応の充実 通級指導教室の充実 支援教育に関する教員向け研修及び外部講師を招いてのスクリーニングの実施 日常的な情報交換、短時間の打ち合わせの実施
④学習に関する生徒アンケート項目「将来の夢や目標を持ってい	④ 80%	現状 ④ 67% こ小中連携し、地域を含めて、めざす子ども像を中心に

(様式1)

る。」の肯定的回答	据えた取組みの推進 子ども主体の生徒会活動やボランティア活動の推進 地域人材や外部講師による学ぶ機会の増加
-----------	---

目標設定区分2『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
①チーム田原として、教職員それぞれが自分の得意・不得意を認識し、得意なことはチーム田原のために活用し、不得意なことはみんなでカバーしていけるような環境づくりを構築する。 ②こ小中連携を軸として、子どもの成長を長いスパンで見ることで、子どもの良さと課題を共有しつつ具体的な教育活動ができる組織づくりをめざす。		学習に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①-1 学習に関する教職員アンケート項目「学校の状況や課題に対し、全教職員で組織的に取り組んでいますか。」の肯定的回答 ①-2 自己診断教職員アンケート項目「日々の教育活動における課題や悩みについて気軽に相談し合える職場の人間関係ができている。」の肯定的回答	①-1 100% ①-2 100%	現状 ①-1 94%、①-2 87% 定期的に週に一度、教職員で打ち合わせを行う時間を設定する。 学校の状況や課題について、適時に情報提供する。 職員会議や運営委員会等において、良い取組みや課題について情報共有するとともに、課題については自分事として議論できる環境づくりに努める。 管理職や学年主任、各部長が日ごろから部員等の行動等を観察しつつ助言できる雰囲気醸成を図る。
②自己診断アンケート「こども園、小学校、中学校の連携した取組みは充実していますか。」の肯定的回答	② 90%	現状 ② 82% ・年6回のこ小中連携会議の実施 ・こ小中が連携した取組みの実施 ・年2回のこ小中の教職員による合同研修会の実施

目標設定区分3『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)
①様々な教育活動において、常に目的を意識した取組みを推進し、目的に対する達成度の視点での振り返りの定着を進める。 ②先進的な教育実践に触れることで教員としてのスキルアップを図り、学校教育を俯瞰的に見	学校教育自己診断アンケート

(様式1)

る姿勢を育成する。さらには、市全体に対して発信できるスキルを身につけさせたい。		
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①-1 学校自己診断アンケートの項目 「本校は教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の強肯定的評価 ①-2 学校自己診断アンケートの項目 「職員会議をはじめ各種の会議が、情報交換や課題検討の場として有効に機能している。」の肯定的評価	①-1 50% ①-2 100%	現状 ①-1 44%、①-2 87% 目的を意識した各活動の振り返りの実施 振り返りによる改善点の論議の推進 日々の情報交換を定期的実施する機会の設定 先進的な取組みの学校の訪問や優れた教職員の授業参観により、学んだことや得られたことを本校全教員で共有
②学校自己診断アンケートの項目「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。」の肯定的評価	② 100%	現状 ② 94% 先進的な取組みの学校の訪問や優れた教職員の授業参観により、学んだことや得られたことを本校全教員で共有 学習指導部による授業研究を推進する。 日常的な情報交換、短時間の打ち合わせの推進 様々な場面での授業研究の推進 「創造的思考の問い」を取り入れた授業づくり、プロジェクト型学習の推進

目標設定区分4『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
コミュニティ・スクールとしての定着を図る。PTA 活動や地域教育協議会の活動を通して顔のわかる関係作りを進めることで自分たちの地域の自分たちの学校としてのイメージの定着を進める。		学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学校自己診断アンケートの項目「学校は保護者や地域の人たちと話をする機会を設けていますか。」の否定的評価	0%	現状 18% 丁寧に生徒の活動を地域発信する。 地域の活動に多く生徒たちをつないでいく。 学校運営協議会を核として学校のニーズを発信しつつ地域に開かれた学校づくりを意識した取組みを開拓する。